

2017年6月3日

第59回 つくば歩の会「万葉のふるさと・市川」のご案内

「市川案内人の会」ガイドさんの案内で、万葉歌人に詠まれた伝説の乙女を祀る霊神堂から下総国分寺等がある丘陵の国府台を巡ります。

午後は、市川駅に隣接する市川市アイ・リンクタウン展望施設（ザ・ターズ・ウエスト45F）から大パノラマを楽しめます。申込締め切りは、7月5日（水）

1) 日 時：2017年7月12日（水）

2) 場所：「万葉のふるさと・市川」の真間・国分地区散策

3) 集合場所と時間：JR総武線 市川駅中央口改札 10:00 集合

4) コース：徒歩 約3km

市川駅スタート(10:05)→万葉の道（大門通り）→真間の継橋→手児奈霊神堂(10:35～45)→亀井院(10:45～10:55)→弘法寺(11:00～11:20)→須和田公園(11:30～45)→郭沫若記念館(11:50)→下総国分寺(12:00～10)→京成バス 国分角(12:20)→三本松(12:30)→昼食:レストラン マルシェ(12:35～13:15)→ザ・ターズ・ウエスト45階展望(13:20～50)→市川駅解散(14:00)

5) 参加費：2000円（注意：京成バス代は実費）

6) 世話人；町田良一（04-7149-2255）、野本誠一郎（029-873-0753）
鈴木紘一（0297-65-8420）

連絡先；関 力(Tel&Fax 04-7188-0029) (E-Mail ks-seki@wind.ocn.ne.jp)

.....

昼食：レストラン マルシェ（047-323-3381）山崎製パン厚生年金基金会館2F
全員（幕の内弁当＋飲み物）

交通

① JR線利用

常磐線土浦(8:14)→我孫子(8:49)→同駅、千代田線乗換(8:54)
→柏(9:00)→新松戸(9:08)→同駅、武蔵野線乗換(9:15)→
西船橋(9:30)→同駅、総武線乗換(9:38)→市川(9:45)

② TX、JR線利用

TX つくば(8:30)→南流山(9:01)→同駅、武蔵野線乗換(9:12)
→西船橋(9:30)→同駅、総武線乗換(9:38)→市川(9:45)

③ JR線利用

総武快速線 東京(9:26)→市川(9:44) **中央口改札**

万葉集は、7世紀後半から8世紀後半にかけて編纂された、現存するわが国最古の和歌集。全20巻からなり、約4500首の歌が収められている。

作者層は天皇から農民まで幅広い階層に及び、詠み込まれた土地も東北から九州に至る日本各地に及ぶ。

実質上の万葉時代は、天智天皇や天武天皇の父に当たる629年に即位した舒明天皇以降、万葉集最後の歌である巻二十の4516番が作られた759年までの、約130年間と考えられている。

その内容は、「雑歌」「相聞歌」「挽歌」に分類されている。

「雑歌（ぞうか）」は、相聞歌・挽歌以外の歌で、公の性質を持った宮廷関係の歌、旅で詠んだ歌、自然や四季をめでの歌など。

「相聞歌（そうもんか）」の相聞は、お互いの消息を交わし合う意で、親子・兄弟姉妹・友人など親しい間柄で贈答された歌も含まれるが、多くは男女の恋の歌。

「挽歌（ばんか）」は、人の死に関する歌。死者を悼み、哀傷する歌。

古代は自然を畏怖し、敬い、山には山の神、川には川の神がいると信じていた時代。万葉の時代はそういった自然に対する畏怖の感情からやがては解放され、自然を自然として讃美するように移行してゆく時代であった。人々が自然とともに生きていた時代であり、万葉集には自然が豊かに詠み込まれている。

1) 真間の継橋（ままのつぎはし）

この橋は下総の国府があった国府台へ向かうための橋で、砂洲を中継地点として複数の板橋を架け渡してあったことからこの名を得たとされている。

2) 手児奈霊神堂（てこなれいしんどう）

手児奈（手児名）とは伝説上の美しい娘で、多くの男がめとりたいと争った。そのさまを厭になって真間の入江に身を投げたという。

その心情を里人が憐れみ、手厚く葬り、やがてこの話が広まり、多くの歌人が歌に残した。

万葉歌人山部赤人は「吾も見つ 人にも告げむ 勝鹿の真間の手児名が 奥津城處（おくつきどころ）・・・私も見た 人にも話そう 葛飾の 真間の手児奈の墓を・・・」と詠っている。

3) 亀井院（かめいいん）

日蓮宗寺院の亀井院は、寛永12年（1635）弘法寺11世住職の日立上人が貫主の隠居寺として建立。当時、清水が湧いていたことにちなんでか瓶井院、

瓶井坊とも呼ばれ、真間山弘法寺の子院のひとつであった。

その後、元禄9年(1696)に鈴木長頼は亡父長常を瓶井坊に葬り、その菩提を弔うため坊を修復し、以来瓶井坊は鈴木院とよばれるようになった。

長頼は、当時弘法寺の17世日貞上人と関り万葉集に歌われた「真間の井」、「真間の娘子(手児奈)の墓」、「継橋」の所在を後世に継承するため、それぞれの地に銘文を刻んだ碑を建てた。

宝永2年(1705)に長頼が没して鈴木家が凋落したため、同院の傍にあった霊亀出現の井戸「亀井(真間の井)」にちなみ、亀井坊と改められた。

その後、明治21年(1888)の火災で本殿が焼失、昭和6年(1931)に再建され、亀井院に改称された。

万葉の歌人高橋虫麻呂は、手児奈が真間の井で水を汲んだという伝承を聞いて「勝鹿の真間の井を見れば立ち平(なら)し 水汲ましけむ 手児奈し思ほゆ・・葛飾の真間の井を見ると、いつもここに立って水をくんだという手児奈が偲ばれる・・」の歌を残した。

4) 弘法寺(ぐほうじ)

真間山弘法寺は、奈良時代に行基が手児奈という美しい女性の霊を供養するために建立した求法寺がはじまりと言われている。

その後、100年ほど経った平安時代に弘法大師空海が七堂伽藍を再建、「真間山 弘法寺」と改称。

真間の地は、かつてはすぐ北に六所神社があり、国府が設置されていた古代の下総国の中心地であった。

境内左手奥の大黒堂には、日蓮聖人親刻の大黒天を祀った太刀大黒尊天、仁王門の右手前に推定樹齢400年といわれる伏姫桜(枝垂桜)などがある。

また、参道石段・全63段の下から27段目左に「涙石」がある。

(江戸時代に、作事奉行の鈴木長頼が日光東照宮の造営のために使う石材を伊豆から船で運ぶ途中、市川の根本付近にさしかかった時に船が動かなくなり、積んでいた石を勝手に近くの弘法寺の石段に使用してしまった。長頼は幕府から責任を追及され石段で切腹。その時の無念の血と涙が染み込んでいるという伝承がある。また、市川市には水脈が多く300以上の湧き水があり、たまたま石の一部が水脈に触れているのではないかとの説もある。)

5) 須和田公園(すわだこうえん)

弥生時代後期の須和田遺跡を整備し公園に。発掘調査が行われたときに、5棟の居住跡が発見され、布目瓦や文様瓦、文字瓦、文字を墨書きした土器などが出土した。

公園中央には須和田遺跡の碑がある他、日中友好協会名誉会長だった郭沫若の詩碑もある。

6) 郭沫若記念館 (かくまつじゃくきねんかん)

郭沫若は中国の近代文学・歴史学の先駆者。大正2年(1914)に日本に留学。昭和2年、蒋介石政権に追われ、日本に亡命し、市川に居を構え、その旧宅が現在地に復元移築されている。

7) 下総国分寺 (しもうさこくぶんじ)

天平13年(741年)に聖武天皇が仏教による国家鎮護の為、当時の日本の各国に国分寺(金光明四天王護国之寺)と国分尼寺(法華滅罪之寺)を建立。千葉県では上総・下総・安房にそれぞれ建立。下総の国では市川に国府があったので、この地に建てられた。

国分寺建立の年代は明らかでないが、奈良時代であることは確実視されている。過去に数回の火災を受け、現在では跡地となってしまった。

昭和40年～41年の発掘調査で、金堂、講堂、七重塔の基壇(基礎)が発見された。直接の関係はないものの、法隆寺と同じであったため法隆寺式伽藍と言われる配置である。

8) 市川市アイ・リンクタウン展望施設

ザタワーズウエスト45階にある展望施設は、地上150メートルから360°の大パノラマが楽しめ、市内一円を見渡せる絶好のビューポイント。

天気良ければ、東京スカイツリーと富士山のツーショットを見ることができる。

以上